

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		(仮称)新・産業振興ビジョン策定委員会				
事務局 (担当課)		産業政策課 電話042-769-8237(直通)				
開催日時		平成27年8月20日(木) 午前10時~11時40分				
開催場所		相模原市役所 本庁舎 本館2階 第1特別会議室				
出席者	委員	10人(別紙のとおり)				
	その他					
	事務局	10人(産業政策課長、商業観光課長、他8人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1. 開会 2. 議題 (1)(仮称)新・産業振興ビジョン検討報告書(案)について (2)(仮称)新・産業振興ビジョン検討報告書 概要版(案)について 3. その他 4. 閉会				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

### 1 開 会

事務局の進行により開会した。

### 2 議題（ は委員、 は委員長、 は事務局の発言）

飯島委員長の進行により議事に入った。

#### （１）（仮称）新・産業振興ビジョン検討報告書（案）について

事務局から説明した後、質疑応答を行った。

230万人という数字が出てくるが、周辺を含めた人口が230万人という数字の根拠が不明確である。

根拠を脚注に書くなどの対応をする。

「さがみはらブランドの確立」という言葉が出てくるが、「さがみはらブランド」とは何か。

相模原には様々な地域資源があるが、「さがみはらブランド」というものはまだ確立できていない。これから確立するというので、あえて確立という言葉をつけている。

基本施策 3.1.4 の既存商業機能の中で、「学生向け起業体験事業の実施」は、大学生が対象と思われる。一方で、基本施策 4.1.1 の事業例として「早期起業家教育事業の推進」は、小学生以降が対象と思われる。起業家教育のターゲットは高校生を中心に幅広く実施する方が、地域、特に商店街の活性化のためには良いのではないか。

「学生向け起業体験事業の実施」は、「生徒・学生向け」に修正し、「早期起業家教育事業の推進」については、早期ということであれば小学生に限らず中学生、高校生等も含まれるため、そのままの表現でよいのでは。

修正する。

基本施策 3.1.1 地域資源を活用した魅力の創出の事業例として JAXA が挙げられているが、街の魅力を高められるものとして、博物館やフィルムセンターも載せたほうがよいのではないか。

相模原市のシティーセールスとして、特に売りになる地域資源である JAXA、ロボット、リニアといったところを打ち出している。

博物館については、「歴史や文化、街並みを生かしたイベントの支援」に位置

づけていくのがよいのでは。

修正する。

基本施策 1.1.4 農商工連携が挙げられているが、農商工だけでなく、福祉と連携した農福連携という話を聞く。福祉の観点では障害者の経済的自立といったことが課題となっており、一方で、農業の観点では、高齢化、後継者不足が課題となっている。ここが農福商工連携になるのかはわからないが、福の観点についても加える必要があるのではないか。

農商工連携という言葉は、国のキーワードにもなっているので残したい。農福連携という言葉を出すと、商工関係とあまり関連がないという印象を与えてしまうかもしれないので、「農商工がベースにあるが、さらにそれが福祉と連携し、高齢化社会に向けて新たな取り組みが出てくることも予想される」という文意を追加するということがか。

表現を検討する。

基本施策 1.1.4 の中に「地場産木材の利活用促進事業」とあるが、産学連携等により複合的に地場産木材の利活用促進事業を進めていけるようなものがあるとよい。

現在進めている事業として、森林ビジョンに基づき、津久井産材、木材の利用促進を図っているが、産学連携も今後必要になってくると考えられるので、今後具体化を目指す事業で整理したい。

検討報告書については、意見の修正については事務局に一任された。

## (2)(仮称)新・産業振興ビジョン検討報告書 概要版(案)について

事務局から説明した後、意見交換を行った。

「本市産業の課題(弱み)」の中に、「商店街のにぎわいの低下」と書かれている。「低下」と書かれると、表現としてとても厳しい印象を受ける。もう少し柔らかい表現はないか。

事務局でも表現についてはいろいろと考えてみたが、概要版については、短い言葉で表現するため、あいまいな言葉ではなく、あえて誰が見てもわかるような表現にしており、そのままの文言で進めたい。

「相模原市の目指す産業像」をもっと目立つように表記した方がよい。  
修正する。

ビジョンの推進体制について、連携の図が記載されており、連携することが推進体制だということに見える。また、本編では、PDCA サイクルについては記載されているが、具体的に何をするかについて触れていないがそれでよい。

本編では、新総合計画の施策を実施するために基本的な方針があり、それに沿って具体的な施策については総合計画の実施計画の中で推進していく、進捗状況については既にあるものを活用するというを説明している。概要版には、総合計画の関係や PDCA サイクルについては触れておらず、既存の産学連携組織を活用するとしか載せていない。

本編の「PDCA サイクルの考え方を活用したビジョンの推進」についても、どのように PDCA を行うかについては書かれていないので、「PDCA が必要なので前述しているような連携体制の中で PDCA を実施していきます」というような文章を追加した方がよい。

表現を検討する。

この概要版は、報告書の概要版なので、あまりデザイン的に凝るという性格のものではなく、報告書の概要をとりまとめたものということ。報告書を受けて取りまとめたビジョンの案について、パブリックコメントで市民の意見をいただく場合など、市民に公開する時にはデザインが変わるということを念頭においていただきたい。

「基本施策 2.3.1 市民の生活を守り、健康の維持増進に資する製品を活用したソリューションの創出」とあるが、基本施策の中でここだけが「、」が入っているのと、「市民の生活を守り」というのが抽象的な印象を受ける。

現在進めている事例として、ロボット産業活性化事業を再掲として挙げている。これは先端的なロボットの開発だが、その中には、災害対応等も含まれるので、「市民生活を守り、」という文言を入れた。

市民を守るといって、生活支援ロボットの研究開発。これは県のロボット産業特区でも、県民の生活を守るためということになっている。この文章は、部会でまとめてきたが、構成を変更する中で多少表現を変えてきた中で、最初の文章が残っている表現かと思う。確かに基本施策の中で「、」がついているのはこれだけであり、また、「市民の生活を守り」は対象が広いイメージなのに対して、「健康の維持増進」は具体的だから違和感があるのかもしれない。

ロボット産業特区との整合性もあるので、それも含めて検討したい。

概要版についても、意見の修正については事務局に一任された。

### 3 その他

事務局から産業振興ビジョンの名称(案)について説明した後、意見交換を行った。

今回の産業振興ビジョンでは、相模原市内だけでなく、230万都市圏という広域を意識して、「相模原市」ではなく、ひらがなで「さがみはら」の方がいいのではないかということで、6案とも「さがみはら」としている。

案、案の「2025」は目標年度だが、2015年に作ったビジョンであれば「2015」にした方がよいと思う。どこを基準として打ち出したいのか、目標年度なのか、策定年度なのかによってタイトルの付け方も違って来る。できれば作った時点、本ビジョンであれば2015を入れる方がよいのではないか。

前回のさがみはら産業振興ビジョンの概要版では、デザインとしてタイトルの後ろに目標年度の2010が書かれていた。例えば21世紀ビジョンというのは21世紀になってから作るのではなく、20世紀に21世紀を目指すビジョンを作っているわけで、このようなビジョンを作る際には、目標年度を記載する方が一般的だと思う。また、タイトルに「新」をつけると、以前にも委員から、「新」の次はどうなるのか、というご指摘もあり、あまりよろしくないのではないかと考えている。そうした中で年号が入っているのは現代的なのではないか。

案の2025がよいと思う。2025年というのは団塊の世代が後期高齢者になる時期で、日本が沈没するか、あるいは世界に向かってはばたけるかの境目だと思う。その時に新たな価値と魅力を作らなければ、日本は沈む。未来を拓けないと沈んでいってしまう。案のようなタイトルだと、2025年までに世界に向けて新たな価値と魅力を創造・発信し、未来を拓くさがみはらを作るという決意表明になっている。さがみはら産業振興ビジョンだけだと、一体何が言いたいのかということになる。本当にこれでない生き抜けないという意味合いで、良いところを突いているし、目標設定としては非常にチャレンジングであるし、賛成である。

ビジョンの名称は案「さがみはら産業振興ビジョン2025～世界に向けて、新たな価値と魅力を創造・発信し、未来を拓くさがみはら～」としたい。

概要版について、ビジョンの名称が案ということになり、タイトルに「世界に向けて…」という言葉が入ってくることを考えた時に、概要版の中で「世界に向けて…」ということがどこから読み取れるのか。そう考えると、本編の目指す産業像のイメージ図が全てを物語っていると思う。このイメージ図があると目指す産業像を非常に説明しやすいと思うので、できれば目指す産業像の下に入れた方がよい。

本編の図表3-2 目指すべき産業像のイメージ図は、概要版に入れる、その配置については事務局に一任する。

ビジョンの推進体制のところに、目標年度について平成 37 年度と書かれているが、ビジョンの名称に 2025 をつけるのであれば、ここも西暦にして 2025 年度にしたらどうか。

西暦で統一して、概要版の推進体制に書かれている 2025 は、平成 37 年ではなく 2025 年に修正する。

以 上

(仮称)新・産業振興ビジョン策定委員会委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	飯島 泰裕	青山学院大学社会情報学部 教授	委員長	出席
2	上野 賢美	(株)共立代表取締役		出席
3	浦上 裕史	(社)相模原市商店連合会 代表理事		出席
4	上山 雅子	公募委員		出席
5	佐藤 知正	東京大学 名誉教授	副委員長	出席
6	杉岡 芳樹	相模原商工会議所 会頭	代理出席	出席
7	奈良 哲弥	津久井商工会 商業部会長		出席
8	最住 悦子	公募委員		出席
9	若生 ひとみ	ルビーデザイン 代表		出席
10	渡邊 博樹	(株)日本政策金融公庫厚木支店 支店長		出席

(50音順 敬称略)